

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティー誌

8

No. 211
Aug. 2015

特集:「うらじゅ」で地域がひとつに
～『表町おきやく連』の歩みと想い～



特集！

うらじやで地域とひとつに ～『表町おきやく連』の 歩みと想い～

↑岡山うらじや 表町 おきやく連ブログより抜粋

<http://okyakuren.seesaa.net/>



平成 27 年 8 月 1、2 日、今年も岡山では夏祭りとして第 22 回「うらじや」が開催されました。あすなろ福祉会が拠点をおく表町商店街の踊り連「表町おきやく連」に参加させて頂くとともに、その歩みと想いを伺いました。

「うらじや」とは？

「うらじや」とは、岡山に古くからある伝承をもとにつけられたお祭りです。皆さんには「桃太郎伝説」を「存知でしょうか。この桃太郎伝説には諸説あり、一部の伝承では、鬼は悪役ではなく岡山の発展に貢献した渡来人の「温羅（うら）」であつたという説もあります。岡山のとある神社では桃太郎のモデルとなつた「吉備津彦命（きびつひこのみこと）」と共に祭られています。

そのような伝承を基につくられたうらじやは、岡山の文化を伝えるお祭りなのです。

今では岡山市の大夏の恒例行事となり、沢山の人々がこのお祭りの特徴とも言われる「温羅（うら）化粧」をして岡山の街を踊り歩きます。「踊り連」とに曲・振り付け・衣装が異なり、個性豊かなパフォーマンスを競い合います。

今年のうらじやは、八月一日・二日に行われました。あすなろはこの二日間、岡山の中心部にある表町商店街が後援する「表町おきやく連」の一員として参加しました。

あすなろが表町おきやく連に参加して感じたこと

岡山の中心部にある表町商店街に移転したからこそできることってなんだろう？そんな思いが、うらじやに参加するきっかけになりました。いつかは、あすなろで踊り連をつくりたいという思いもありました。しかし、あすなろとしても

うらじやへの参加は初の試みあつたため、他の踊り連に入りうらじやについて勉強をさせていただこうという話から、既存の踊り連を探すことになりました。利用者も含め楽しく和気藹々と踊ることができる踊り連はないだろうか・・・。それが、岡山一大きな商店街である表町商店街の主催する「表町おきやく連」との出会いのきっかけとなりました。

「表町おきやく連」の代表である矢部さんに連絡を取り、あすなろ福祉会として利用者と踊り連に加入する」とはできないかとお伝えした時は、一体どのように受け止められるのだろうか、と不安な気持ちがありました。しかし、矢部さんは「たとえハンディキャップがあつたとしても、一緒に踊ればよいのでは」と快く引き受け下さり、あすなろ福祉会の参加が実現されました。

練習に参加をしてみると、「踊りをうまく踊れること」が大切なではなく、皆が楽しく参加出来ること」が一番」「練習をハードにこなすのではなく、その人のペースでゆっくりとお気楽に」という「表町おきやく連」のスタイルに、親しみやすさを感じました。また、スタッフの方々をはじめ、一緒に練習をしている方たちから「く自然に受け入れていただきました。その自然さや皆さんを持つ明るさにとても元気をもらいました。そんな皆さんのが良さが、うらじや本番でみんなが一丸となつて楽しめるパワーとなつていると感じまし

「表町おきやく連」に加入してうらじやに参加し、うらじやとどう関わっていきたいかという思いも変わりました。当初は、あすなるの中で踊り連をつくつて出場し、地域の方々と共に、岡山のお祭りであるうらじやを楽しみたいと思っていました。しかし、「地域と共に」「参加者と一緒にになって」うらじやを楽しむためには、私たちが地域に入り、地域の一員としてうらじやに参加することが大切だと気が付きました。あすなるとしての参加、地域の一員としての参加、どちらも「地域に参加する」形ですが、誰もが垣根なく一体となって踊ることができた感動は、「表町おきやく連」に加入し「地域の一員」として参加をしたからこそ得られた思いだと感じています。

「明るく、楽しく、景気よく、笑顔満開、お気楽に」を合言葉に、誰もが気兼ねなく参加できる「表町おきやく連」はどうのうにしてつくられたのでしょうか。また、そんな「表町おきやく連」を支える表町商店街はどのような思いをもつてうらじやを応援しているのでしょうか。

表町おきやく連代表の矢部さんに

お話を伺いました

ことでかたちになつたのがうらじやでした。第一回・第二回のうらじやでは踊りとマイクというコンテンツだけではなく、トロッコレースがあつたたり、演歌歌手のステージがあつたり、気球が挙がつたり、フォーミュラーカーの展示があつたり……。いろんな分野で頑張っている人たちが集まつた「発表会」のようなものでした。しかし、「みんなが等しく」「市民参加型」というお祭りならば、作り手も参加する側も等しく同じところで入つていけるようなお祭りのスタイルに作り替えなければいけないということで、当時の実行委員会の方たちが、うらじやの踊りとマイクに特化したお祭りに作り替え、第三回のお祭りから今

いうコンセプトにピッタリではないか、ということになり、うらじやというものがはじまつたそうです。

——うらじやの由来は？

矢部さん 普通に考えれば、岡山は悪い鬼を退治した桃太郎が主人公でいいんだけど、岡山に伝わる桃太郎伝説をひも解いてみると鬼のモデルの温羅（うら）は悪い人ではなく、吉備の国の発展の礎を作ってくれた英雄という言い伝えがあります。史実は分かりませんが、岡山では鬼＝温羅との戦いに勝った桃太郎も、温羅も等しく祭られています。あまり知られていないことなのですが、うらじやではこの部分に光を当てて、このお祭りのテーマでもあるユートピア的な「共生と融和」



——表町おきやく連が立ち上がり九年という歳月がたっていますが、立ち上がりのきっかけは？

矢部さん 今年で二二一年目を迎える「うらじや」

ですが、「うらじや」が始まつて十年目くらいは、表町商店街としてのうらじやの参加は、場所の提供・給水のボランティア程度、それ以外は特に手伝いをする機会がなかつたんです。むしろ僕はアンチうらじや派で、「なんでこんなにうるさい音で商店街の中を通るんだ、商売にならんじやないか」と思つっていました。ある日、当時の「うらじや」実行委員長とお話しをする機会があつたの

矢部さん 一九九四年に岡山青年会議所の方が中心となり、市民参加型のお祭りを作ろうという

で、商店街の現状を伝え、共によくよく話し合つてみると、うらじや実行委員会の思いは「岡山の地域に根差した、岡山市民が自ら作る市民参加型のお祭りにしたい、作り手と参加者が等しく行えるお祭りにしたい」という思いで「うらじや」をしていて「うらじや」を聞いていました。それならば、岡山で一番古くて歴史があり、岡山で一番大きい商店街である表町商店街が、岡山のために、岡山市のお祭りであるこの「うらじや」に何も協力しないわけにはいかないのでは、だったら街の人間として、岡山の人間として協力しましよう、ということでお会場の運営を自主的にお手伝いすることになつたんです。それが二年くらい前の話しだつてしまふ。

第一回のうらじやだつたと思います。台風になりました。外の会場の演武がすべて中止になつたことがありました。唯一、日曜日であれば表町商店街で受け入れられるということになり、急きよスケジュールを組み直し、全ての会場を表町で受け入れ、「うらじや」を実施したことがあります。それはやはり、表町商店街が主体的に関わっていたから実現できたものであつたのでしよう。

一年二年とやつていくうちに、商店街がうらじやに対して、踊り連を受け入れるだけではなくもつとできることがあるのでないか、と思い始めました。当時よく僕が聞いていたのは「うらじや楽しそうだね。でもどうやってチームに入つたらいいのかわからない、どうやつたら踊れるんだろ

う」という意見でした。今のように一般募集しているチームも少なかつたし、一般募集をしていても「鬼」という漢字がチーム名に入つていて、なんとなく「入りにくいなあ」というチームが多くつたんです。だったら、うらじやの入口のようなチームがあつてもいいだろうと。商店街ができることとして、商店街の商人衆とお客様とが一緒になつて、うらじやと一緒に参加して楽しむ一般公募のチームを作ろうと思ったのがきっかけでした。裏方としてのチームの受け入れをするだけではなく、商店街として踊りに参加する事、「うらじや」に出てみたいという人を受け入れる事も商店街という公器ができる社会貢献の一つと考えたんです。



——沢山の店舗がある商店街がまとまり、うらじやを応援しよう、おきやく連を作ろう、という流れになつたのは凄いことでは？

矢部さん 人から見ると大変だつたのかもしれないけど、やるときは一生懸命だつたから苦労だと思います。当時よく僕が聞いていたのは「うらじやは思つていません。やるときも僕一人ではなかつたし、「商店街でうらじやを手伝おう、自主運営しよう」というのも小さな実績を積み重ね、

少しづつ進めていきました。表町商店街には八つの街があり、それぞれに青年部、事業推進部などがあります。そうした各街の担当の方たちに話を通し、了解や協力を得てはじめていました。自分がすべてを中心でできるわけではないので、うらじやを担当して二年くらいしたら次の人がバトンタッチしましたし、その引き継ぎもスムーズにすることができました。それからは先輩たち・仲間たちがうらじやの表町会場を表町に合つたスタイルに作つていつてくれました。ただ、全ての人がうらじやに賛成している訳ではありません、商売にならないため勘弁してくれといふ人もいるשアンチの人もいます。ただし、表町の理事会で毎年決議をしてうらじやについて決めているので、「表町商店街の事業」として協力をしてもらつています。

実をいうと、表町おきやく連は、もう二年ほど早く始めたかったです。だけど、先輩方から「まだ早い」と止められました。当時はその意味が分からなかつたし「なぜはじめられないのか」と疑問に思つていました。しかし「みんなに思いが伝わらない、根回しもできていない、会場運営だってつい二・三年前に始めたばかりだ。ちゃんと体制も立てられていないのに『チームを作ります』というわけにはいかない」と言われたのです。今思えば、あの時良く止めてくれたなあと。止められなかつたら、僕は勝手に暴走して気がついたら誰も協力してもらえない状況になつていただ

ろうから。先輩方からそのように言われた当時は、納得できなかつたけど一人でできるわけではないなあ」と思い、待ちました。二年後、立ち上げに対しても（商店街の先輩方からすれば半ばあきらめだつたかもしれないが）「ゴーサインが出て、チームを立ち上げました。理解を得られて立ち上げた分、沢山の人に喜んでいただいたと思っています、だから表町おきやく連は九年も続いて言っているのかなと思います。

――人を募つたり、表町おきやく連が今のスタイルをつかむまでに、いろいろなご苦労があつたのでは?

矢部さん 「本気で賞をとるチーム」を作ることを、僕自身が少し目指していたこともありました。だけど、一年目からそれはできなくて、参加者を集めるとこから始めなければいけませんでした。

一般募集をしつつも、家内にも協力してもらい、ママさん友達を誘つてもらつたりしました。最低ラインを確保しないとチームとして成り立たないため、人によっては直接口説いたりもしました。それで四十人ほど集まつたかな。

チーム発足一年目ではつきり分かったのは「商店街が作るチームなんだから、夏休みに親子で参

加してもらつたり、夏休みの思い出作りに気楽に参加してもらいたいなあ。」「他のチームのようにかっこいい踊りは練習もハードだし参加できないなけれども、表町おきやく連だったら参加してもいいなあ。」というチームの方が、商店街らしくて親しまれやすいかもしないことです。



たから、表町おきやく連は何回かしか練習しないし、本番が終わつてからどこかのお祭りに踊りに行くわけでもない。だけれども、リピーターが本当に多くて、「またこの時期が来たから、いつから募集が始まりますか?」と言つてくれる人がいるし、参考しているお母さん方がお友達の家族を誘つてくれて「面白いから一緒にやろうよ」と。そんなことが自然にできている今の表町おきやく連のスタイルが無理なくみんなが楽しめるスタイルとして、定着しているんだと思います。お客様と一言で言つても、今の表町のお客様だけを指すのではなく、過去も未来も含めた表町のお客様。そういう方々と増え、「縁がつながればいいかなあ」と思つています。



↑うらじや当日参加者とともに
(写真中央はっぴ姿の矢部さん)

——やつしていく中で感じた苦労は？やりがいや面白さは？



↑練習風景

矢部さん やつぱり想像と実際は違いますね。でも覚悟を決めて始めたことだから。いろいろな意見が出る中で、他者の意見は聞くけど、自分の中で表町おきやく連としてブレてはいけない所はゆずりませんでした。そうでなかつたらチームをして回らなかつた。周りからの不満はあつたのかもしれないけど、自分としては間違つてなかつたと思っています。でも、参加者との接し方は迷いながらでした。毎年家内とも話すんですが、おきやく連の人たちはみんない人ばかりなんですね。本番を見れば、おきやく連の参加者はもつといい人だと思うようになると思いますよ。いろんな人とやれて、いろんな知り合いができたというのは、僕にとって嬉しいことだし。苦労よりも楽しいこと、報われていることが多いので、楽しいばかりです。

——やつしていく中で感じた苦労は？やりがいや面白さは？

矢部さん やつぱり想像と実際は違いますね。でも覚悟を決めて始めたことだから。いろいろな意見が出る中で、他者の意見は聞くけど、自分の中で表町おきやく連としてブレてはいけない所はゆずりませんでした。そうでなかつたらチームをして回らなかつた。周りからの不満はあつたのかもしれないけど、自分としては間違つてなかつたと思っています。でも、参加者との接し方は迷いながらでした。毎年家内とも話すんですが、おきやく連の人たちはみんない人ばかりなんですね。本番を見れば、おきやく連の参加者はもつといい人だと思うようになると思いますよ。いろんな人とやれて、いろんな知り合いができたというのは、僕にとって嬉しいことだし。苦労よりも楽しいこと、報われていることが多いので、楽しいばかりです。

——あすなろを受け入れてくれた理由は？

矢部さん あすなろスタッフと話をして、不安がないと言えば嘘でした。僕自身がどう接したらいいのかわからなかつたし、子供たちは素直なので、大人たちは理解できたとしても、子供たちが素直に思ったことをあすなろの利用者さんに、ぱつとぶつけるようなことがあつてもいけない、と思つていたので。

——でも、参加する前に話しをさせてもらつたら

矢部さん 「あ、なんとなく大丈夫だな」という気はしました。これつて、やる前から「こんなことはいけない」「あんな」とはいけない」というよりは、やってみて、やりながらちょっととずつ起こることに対応した方が自然だなど。子供たちにとつても、

子どもたちの笑顔を見ると癒されるし、お母さんや子どもたちが一緒に写真を撮つている姿や、チームスタッフが子どもたちの写真を撮つている姿を見ると、「表町商店街という名のもとに集まつてくれて夏休みのいい思い出作りをしてくれたんだな、ひとつ役割が果たせたな」と思いました。時々賞に引つかかることがあるので、それはそれでみんな大喜びするし。本当だつたら賞をとれるようなチームじやないかもしけないんだけど、おきやく連のコンセプトが審査員の方たちに伝わっているから、賞に引つかかっているのかなと思つたりします。

——マイノリティ＝珍しいということではなくて、普通にあることなので、何かあつても一つづつクリアしていくばいいのかな、と思つていました。だんですけど、幸いなことに全然そういうことはなかつたんですよね。「あ、ほらやつぱりできただしょ」って。最初からあれこれ心配するより、なんとかルールだけ決めて・・・あとは、あすなろスタッフも一緒に参加すると聞いて、じゃあ大丈夫、と思ったのが一番ですかね。



——どのような表町おきやく連にしていきたい？

矢部さん たぶん、うちはずつと変わらなくてよくて、うらじやの入口のようなチームですね。商店街が夏休みの思い出作りに親子や三世代、一般の男女皆が参加しやすい所であつたらいいのかなあと。コンセプトも「明るく、楽しく、元気よ

く、笑顔満開、お気楽に」で。その代わり、皆さんにお願いしたいのは、表町商店街の名前を背負つて踊つてもらひうので、見ている方に元気だね、明るくて楽しいね、と思つてもらえるよう踊つてもらうことです。そんな様子から、表町は頑張つ

てるね、面白そうだね、というのがお客様に伝わればなあと思ってます。参加している人たちも「表町商店街ってこんなにあつたかくて自分たちも気楽に参加できる場所なんだ」と思つてもらえて、何かあつたら、また表町商店街に来てもらつて気軽にチームスタッフのお店に遊びに行つたり…、そんな「近所づきあいのよう」なチームができたらいいなあとthoughtしています。



↑うらじやのタペストリー・のぼりを制作風景

せんね。地域住民やお客様から「近所づきあいのできるようなお店や街であり、私たちの大切な街だと思つてもらえるような表町にしたいと思つています。

——「うらじやをやることで、商店街が一つの魅力ある町として存在できて、商店街がうらじやを盛り上げていける。そんない関係でいられるのではと思いました。他の方もそう思われているのでは?

矢部さん いつかはそなればいいなあという思いはあります、今は道半ばで楽しんでもらつているという感じ。「これは続ける」とによつてそくなつていくんだろうなあとは思つていますね。

——商店街は地域と密接なつながりが持てる場所。どういう商店街にしていきたい?

表町商店街というのは、百貨店のような岡山市民の晴れの日をお手伝いするお店があつたり、小さな専門店のようにお客さんの日常のお手伝いをできるお店があつたりします。いろんなお店がありますが、何が唯一変わらないのかといふと、地域の方に必要とされるお店じゃないと、いま

「昔」という思いで担つてしまつと「ながります。「ないと寂しい」と「なくちゃ困る」が、ちょうどどいいバランスでミックスされて、岡山市民の誇りと言える場所であつてほしい、そういう風に思つています。

良くマスコミから、「イオンができるてどう思いますか?」と聞かれますが、西日本の旗艦店として位置付けられているものが岡山駅付近でできるというのは、それは市民の自慢でいいと思うんですね。「岡山には」「んなす」い商施設が出来たんだぞ!」つて。それと同様に「岡山市民の生活を身近で支えてくれていて、何か困つたとき相談すればたいていのことは助けてくれるし、『何かあればあそこ行きな』と気軽に近所の店を紹介してくれるし、私が本当に困つたときに尋ねていけるお店がたくさんあるのが表町商店街」だと、岡山市民にとって誇りと言える場所となるような、そういう商店街にしたいなあという思いはあります。

——「うらじやをやる」のようなお祭りにしていきたい?

矢部さん 地域の方から「あそこに行けば私のことをわかってくれる店がある」「私にとつて必要なお店がある集合体」ぢやないといけないと思っています。極端な言い方をすると「ないと寂しい」と「なくちゃ困る」のは全然違う。「なくちゃ困る」のはちよつと行きすぎで、「ないと寂しい」のも郷愁に浸つているだけで当事者意識がなく、

くれている子たちも出できました。今はまだ祭り

なのかイベントなのかわからない感じだと思いま

すが、これが何年かしていくと「文化」になつ

ていくような、そんな風になつてくれればいいな

と思っています。「夏といえばうらじやでしょ!」

というような。「うらじやが出来てまだ二二年です。

十年以上前にうらじやのコアなメンバーと話して

いたのは、運動会の時期になつたら小学校や中

学校からうらじやの音楽が聞こえるようになつ

たらしいなあと。今は何となくそういう風になつ

ているし。子供のころからうらじやがあるのが当

たり前の世代の子たちが裏方や実行委員会に入

つてきてくれた、それはまた全然違うよね、と

話していたんです。また学生時代からうらじやに

携わってきた子たちが「岡山に遊びに来ます」で

はなく「うらじやのときは岡山に帰ってきます」

と言つてくれるんですね。「帰つてきます」と

いうのは凄い言葉だよなあと、こいつらは「帰つ

てきます」というのか、と。凄く嬉しくて。(笑)

そういう世代が大人になり、社会的にそれなりのポジションにつき子どもを育てはじめた時に、はじめて岡山の文化になつていくんだろうなあ

と思っています。

つたのですが。

矢部さん そうかもしれませんね。二二年ですか

らね。「うらじやがブームだけで終わらなかつたの

は、青年会議所の方たちが立ち上げのときに「市

民参加型で、市民と一緒に作るんだ」と覚悟を決

め地道に実績を積み上げたからで、一過性のもの

で終わらない様に私たちもこれからも出来る努

力は続けないといけませんね。

あすなろから参加したFさんの感想

——うらじやに参加したきっかけは?

表町に移転して、表町にうらじやのイメージがあつたのであすなろの職員からおきやく連のことを聞いて参加しました。

——うらじやに参加してみて感想は?

とても楽しかったです。皆さんとても優しく、親しみやすい人もいて楽しかったです。

本番はとても暑くて大変でしたが、なんとか二日間をのりきました。たくさん的人がいて緊張しましたが笑顔で楽しく踊れました。

おきやく連の人たちとうらじやを楽しく踊れました。また、来年にはあすなろからたくさん的人が参加してくれたからいいなあと思います。

晴れ晴れ大空 古備の国

歌え 踊れ 鬼祭り

晴れ晴れ大空 古備の国

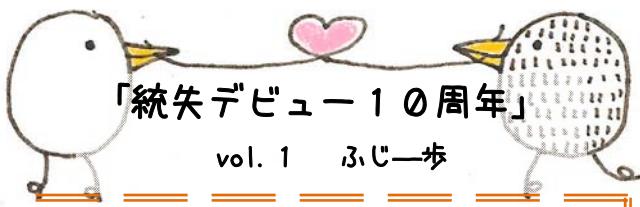
温羅じや 温羅じや

温羅じや

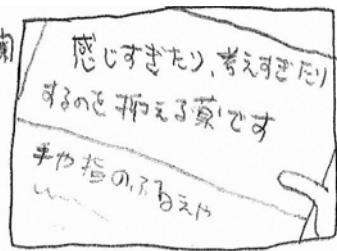


↑最後に皆で記念撮影！市役所通りパレード後

投稿コーナー



葉の功能の欄
に書かれてる
言葉。



自分の人生をかけ
て守りたいもの
なのにな。



ク」だ。
「のボトルコーヒーは原材料に香料や乳
化剤が入っているものの、「」最近の缶コ
ーヒーには見られなかつたほどの「コーヒー
感」がある。欠点はといえば、価格が若干
高いこと(百五十円)だろうか。じつはこの
ボトルコーヒー、すでに今年の三月辺りか
ら販売されていたらしい。それなのに今ま
でもまったく気がつかなかつた。ともあれ今
の段階では、このプレミアムボスのグラック
が一番いいような気がしている。

梅雨が明けて、暑い日が続いていますね
(+)こんな暑い日にはかき氷が食べたくな
ります☆私は練乳をかけて食べるのが好き
ですが、みなさんは何味が好きですか？

私は今、韓国語を学んでいます。
半分韓国語を覚えました！

サカモトウガより

君は諦めない
誰にでもある秋めいたる可能性
最初はないかな? よくチクでキスして
不安になってしまふかもー(笑)
徐々に向こう持つて博うやぱい
必ずや上達する事ができる
未だ見て進むよ
きっと何が見えてくるよ
さあ今こそ無限の翼を広げよう

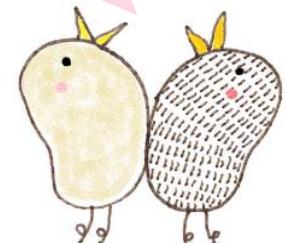
観たり、読んでくれる人の心に響かせ
「感動」して欲しい。
何事にも限定する事なく前向きに挑戦して頑張ろうという想
いで作品にしている。

英聖

ぱるつこ広場

ぱるつこ広場

広場



感想・投稿 募集中!
詩、俳句、絵、ジャンル不問
です。郵便、メール fax 等で
ご投稿 下さい♪待っています★

古樂日和
こがくびより

藤井健喜

七月の中旬に台風十一号が西日本を縦
断したりなどして、今年も長雨になつて夏
らしくない天候になるのだろうかと思つた
りもしていたが、それ以後は夏らしい暑さ
が戻ってきた。この原稿を書いているのはま
だ七月なのだが、いまのところは夏らしく
ない天候を気に病む必要はなさそうであ
る。

いつも暑いとやはり欲しくなるのはアイ
スコーヒーである。筆者もカフェ・モモに行
ったときにはたいていアイスコーヒーを注文
している。そして帰りのバスを待つあいだに
は、バステーションの待合室で缶コーヒー
を買って飲んでいる。

以前筆者は、缶コーヒーの質が落ちたと
このコラムの中で嘆いたことがあった。その
気持ちに今も変わりはないが、最近「これ
は結構いいかも知れない」と思う缶コーヒ
ー(実際はボトルコーヒー)に出くわした。
それがサントリーの「プレミアムボス・ブラン
ク」だ。

このボトルコーヒーは原材料に香料や乳
化剤が入っているものの、「」最近の缶コ
ーヒーには見られなかつたほどの「コーヒー
感」がある。欠点はといえば、価格が若干
高いこと(百五十円)だろうか。じつはこの
ボトルコーヒー、すでに今年の三月辺りか
ら販売されていたらしい。それなのに今ま
でもまったく気がつかなかつた。ともあれ今
の段階では、このプレミアムボスのグラック
が一番いいような気がしている。

お菓子作りサークル

開催しました♪

あんこ付きわらびもち



七月三一日（金）お菓子づくりサークルをしました♪今回、作ったのは「抹茶のわらびもち」です。参加者は少なかったのですが、出来上がりは完璧で、今まで食べた「わらびもち」の中で一番美味しかつたです☆

つぶあんは、参加者の方がつくったものを持参して頂き、甘さが絶妙でとても美味しかつたです。このように、お菓子作りサークルでは月に一度、参加費三〇〇円以内で企画しています。

興味のある方は、ぱるおかやまスタッフまでお気軽にお問合せください。

TEL: 086-201-1720

表町土曜夜市

土曜夜市は、商店街の各店舗の代表が集まり、何をするのかを決めます。かき氷・射的などなど、出店の担当は商店街の中にある店舗ごとに割り振られますが、あすなろ福祉会はヨーヨー釣りの担当でした。あすなろが移転して初めての取り組みであり、物品の準備は他の商店街の方たちと協力して行いました。

当日は多くのお客さんで商店街中が埋め尽くされ、終始にぎやかな様子でした。出店を運営するための人が手が足りない！とスタッフ間では大慌てだったのですが、多くのメンバーさんが積極的に準備やヨーヨーづくり、売り子などをしてください、とても心強かったです。ありがとうございました！

興味のある方は、ぱるおかやまスタッフまでお気軽にお問合せください。



フットサル 全国大会に向けて！

七月一一日（土）フットサル岡山交流会 & J S F A 主催 第一回全国大会代表選手選出試合が慈生病院の体育館で行われました。

あすなろ福祉会からは七名の選手が参加し、その他岡山県各地からも参加がありました。開会式やウォーミングアップの後に二チームに分かれて選抜試合を行いました。試合後、MIP賞とMVP賞の発表がありました。MIP賞とは最も印象的だった選手に与えられる賞なのですが、なんとあすなろメンバー選ばれました！



後日、選抜試合の結果から代表選手の選考結果が届いたのですが、驚きの結果となりました。なんと、あすなろから五名の方が全国大会代表選手に選ばれました！皆さんの日々の努力が実りましたね。本当におめでとうございます。フットサルはいつもメンバーを募集しています。初心者の方でも構いません。次回フットサル八月二七日一三時から。お問い合わせ: 086-201-1432 丸橋まで

煙でクッキング

「あすてっぷ」では毎週畠作業に出かけています。採れた野菜で七月一日（水）には肉なし（笑）青椒肉絲と麻婆茄子、胡瓜と茄子の浅漬けを作りました。採れたての野菜はお日様をいっぱい浴びた太陽の味がしました。



本当にありがとうございます！
あすてつぶで植えた苗たちも、現在
ぐんぐん成長中！次は何を作ろうか？
と、今からとても楽しみです。

やトウモロコシも収穫し、バーベキューもしました。今回収穫させてもらった野菜の多くは、メンバーさんのご家族の方

七月二三日（木）、台風の影響により、なんとなく雲が厚く大気が不安定な中でしたが、健康講座「ハイキング」で岡山市南区と玉野市の境にある「怒塚山（いかつかやま）」に登つてきました。



（発達障害や対人関係が苦手の人の癒し場）
七月一日（火）癒し場を開催しました。一一名の
参加があり、皆さんから出して頂いたテーマは次の
五つです。①辛い事があったのに、周囲と上手くい
かず味方がいない時に、さんはどう対処していま
すか？②人と比べてしまふ、自己嫌悪、人と比べな
いようにする方法は何かありますか？③普通って
何だろう？個性って何？④予定の無いときほど時
間が長い、一人で時間をつぶそうとすると焦つてし
まう、上手な時間の使い方は？⑤ついつい食べ過ぎ
てしまう、どうしたら良いの？

「星クズです」「競争率が低い」「望みがかぶらない」「目立つ」「特別な経験を持つている」「独特」「創的」「自分らしい、自分を持つていて」「自分をよく知っている、考えている」「普通の大切さが良く分かる」等、人がオンラインである事のメリットを沢山挙げました。孤独・特異という苦しみのテーマでおしゃべりをする中でも『自分と同じような苦しみを持つ人がいる』『安心』が生まれ、参加者全員が、日々の生活に対し『自分は自分で良いんだ』と少し自信を深めたと感じています。

◆次回予定◆◆◆◆◆

8月12日(水)13時～

多くの方の御参加を心からお待ちしています。見学・途中

参加も歓迎です！

*他の参加者を批判したり改善を強要しない事を第一のルールにしています。



INFORMATION

8月の予定

8月					
7	金	ソフトボール 15 時			
8	土	お菓子づくりサークル 13 時			
9	日				
10	月				
11	火	PC 講座 10 時 卓球サークル 13 時あすなろ出発 13 時 30 分現地集合			
12	水	WRAP10 時 つどい 10 時 30 分 手話サロン 11 時 癒し場 13 時			
13	木				
14	金		8月13日(木)～ 15日(土)は お盆のため お休みします。		
15	土				
16	日				
17	月				
18	火	PC講座 10 時			
19	水	WRAP10 時			
20	木	健康講座「ジム」13 時			
21	金	座談会 13 時～14 時 ソフトボール 15 時			
22	土				
23	日				
24	月				
25	火	PC講座 10 時 卓球サークル 13 時あすなろ出発 13 時 30 分現地集合			
26	水				
27	木	健康講座「フットサル」13 時 女子会 14 時			
28	金	ぱるランチ 10 時 図書館サークル 10 時 手芸サークル 13 時 30 分 ソフトボール 15 時			
29	土	眼鏡っこ 13 時 30 分			
30	日				
31	月				
9月					
1	火				
2	水				

※プログラム・サークル活動に参加するには、すべて前日までに連絡が必要になります。参加者が多い場合には前日より早く締切らせていただくこともあります。早めにご連絡ください。

※日程が変更になることもありますのでご確認ください。

- 発行:社会福祉法人あすなろ福祉会
- 〒700-0822 岡山市北区表町 3-7-27
- 編集:ぱる・おかやま
- TEL:086-201-1720 FAX:086-201-1713
- E-mail:pal-oka@mx35.tiki.ne.jp

7・21・28日(金)

ソフトボール！！

みんなで楽しみながら、外で体を動かそう(^O^)

時 間 15 時～17 時

場 所 百間川グラウンド

※送迎希望の方は必ず事前連絡を！

※自転車やバイクでのグランドへの乗り入れはご遠慮ください。

29日(土) めがね 眼鏡っこ Art of Asunaro

漫画・小説・絵・詩などを書くこと
読むのが好きな人の集い★

自分が書いたり、描いたりしたものを誰かに見てもらいたい人や、見たり読んだりするのが好きだから作品を是非見たいという人集まれ～♪
もちろん眼鏡をかけてなくても参加オッケー！

時 間 13 時 30 分～

場 所 ジョブサポートセンターあすなろ

21日(金) 座談会

本好き！映画好き！漫画好き！集まれ～

新しい座談会ができました！！今まで読んできた本や映画・漫画などをお互いに紹介し合おう☆

時 間 現地活動時間 13 時～14 時

場 所 ぱる・おかやま 2 階

12日(水) 癒し場

発達障害・人間関係で悩んでいる人のいやし場

自分を受け入れてくれる誰かを探していませんか？

時 間 13 時～

場 所 ジョブサポートセンターあすなろ

27日(木) おしゃべり大好き女子集まれ！ 女子会♪

毎月1回、楽しい雰囲気の中、テーマを決めて女子トークに花を咲かせています。みんなでお出かけの企画とかしてみませんか？(^-^♪

時 間 14 時～15 時半

場 所 ぱる・おかやま 2 階

<8月のピア電話相談日>

	火	水	木	金	土
	11	12	13	14	15
AM	○	○	休	休	休
PM	○	○	休	休	休
	18	19	20	21	22
AM	○	休	○	休	○
PM	○	休	休	休	休
	25	26	27	28	29
AM	○	休	○	○	○
PM	○	休	○	休	○

ピア電話相談とは
同じような病気の経験をしたピサポーター
グループクローバー
が、お電話であなたのお悩みをお聞きしています

ピア
電話相談
(086)
201-1719



お気軽におかげ下さい！